

つゆの歌

森野 水琴

大きな葉の上に、丸まった夜露が朝日にきらめく。
いくつかの夜露が合流したのか、つゆの川となり、歌うように取り囲んでいく。
きらめいていた夜露も飲み込まれて、もう見分けがつかなくなった。

暖かな陽ざしを受けて
つゆは湯気をあげながら
大気へと片付けられていく